

特集 歩行障害にどう対応するか

歩行の評価	関西医科大学リハビリテーション医学講座	長谷公孝
歩行耐久性の向上	熊本読麻台リハビリテーション病院	大隈秀信
歩行速度の向上	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻	大畑光司
屋外実用的歩行の獲得	横浜市総合リハビリテーションセンター	藤井 智
犬と一緒に楽しく歩くー歩行障害と介助犬の利用	日本介助犬協会	高柳友子

■巻頭言

リハビリテーション医学・医療の変遷ー新時代に向けて	日本リハビリテーション医学会理事長	久保俊一
---------------------------	-------------------	------

■入門講座：リハビリテーション医療のエビデンスー言語聴覚療法

聴覚障害	北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学分野聴覚療法学	鈴木恵子
------	-------------------------------------	------

■入門講座：医療統計ことはじめ

記述統計	大阪市立大学医療統計学	新谷 歩
------	-------------	------

■実践講座：ケースレポート：脳損傷の在宅リハビリテーション

高次脳機能障害	横浜市総合リハビリテーションセンター	山崎文子
---------	--------------------	------

■実践講座：がんのリハビリテーションー診療ガイドラインをどう活用するか

消化器がん・呼吸器がん	北里大学北里研究所病院リハビリテーション科	村岡香織
-------------	-----------------------	------

短 報

メディカルスタッフと対象者との距離と自律神経活動との関係	秋田リハビリテーション学院	伊藤 昭・他
------------------------------	---------------	--------

症 例 報 告

片麻痺脳性麻痺児に対する上肢ボツリヌス療法と作業療法併用の効果	神奈川県立総合療育相談センター	宇高千恵
---------------------------------	-----------------	------

■集中講座 評価法の使い方

シリーズ1. 総論 3. 歩行障害	東京女子医科大学リハビリテーション科	和田 太
-------------------	--------------------	------

■連載：海外留学・国際交流のすすめ

国際交流の経験ー海外研究留学	山形県立保健医療大学保健医療学部理学療法学科	山口智史
----------------	------------------------	------

■ Sweet Spot：文学に見るリハビリテーション	筑波大学人間系	高橋正雄
映画に見るリハビリテーション	札幌学院大学名誉教授	二通 論

〈バックナンバーと特集テーマ〉

ここに掲げた各号については、当社に在庫がございます。
これ以前の号については東亜ブック(☎ 178-0061 東京都練馬
区大泉学園町 5-27-11, ☎ 03-5947-4781, FAX 03-3923-
4539, E-mail: st@toabook.com, http://www.toabook.com/) に
お問い合わせください。

第46巻(2018年)

- 第3号 訪問リハビリテーション
- 第4号 障害児の学校教育と学外活動
- 第5号 筋力トレーニングエビデンス&プラクティス
- 第6号 失語症の今
- 第7号 脳の画像による予後予測
- 第8号 身体障害者の移動手段
- 第9号 リハビリテーションとグループ療法
- 第10号 リハビリテーション医療で心理職に望むこと
- 第11号 難病に対する医療・福祉とリハビリテーション
- 第12号 大腿骨近位部骨折のリハビリテーション診療

第47巻(2019年)

- 第1号 病院横断的活動とリハビリテーション
- 第2号 脳卒中診療とデータベース
- 第3号 介護ロボットの開発と普及
- 第4号 リハビリテーション医療・介護連携
- 第5号 脊髄損傷のリハビリテーション up-to-date
- 第6号 疾患管理プログラムとしての心不全リハビリテーション
- 第7号 ICU リハビリテーションにおける多職種連携
- 第8号 摂食嚥下リハビリテーションの未来ー各専門職に何ができるか
- 第9号 回復期リハビリテーション病棟退院後の戦略ー生活機能の向上をめざして
- 第10号 義肢装具へのテクノロジーの導入
- 第11号 小児期のがんとリハビリテーション
- 第12号 リハビリテーション医療におけるソーシャルワーク

第48巻(2020年)

- 第1号 医工学最前線
- 第2号 回復期リハビリテーションに求められるもの